

温暖化に対応した乾シイタケ栽培技術 ～ビニール被覆効果～

【研究のポイント】

大分県は乾シイタケ生産量日本一を誇ります。しかしながら、近年は温暖化や極端な気候変動のため、シイタケの発生に適した気象条件が思うように得られず、シイタケ生産にとっては厳しい状況となっています。

特にシイタケ発生ピークを迎える春期(3～5月)は温度上昇傾向が大きく、発生したシイタケが急速に生長するため、傘が開きすぎたバレ葉の割合が高くなってしまいます。

そのため良質のシイタケが採れる冬期の発生割合を高めることを目的として、簡易に設置可能なビニール資材を用いてほだ木を被覆する方法により、冬期の発生を促す試験を行いました。

ビニール被覆によるシイタケ発生の違い(2月4日)



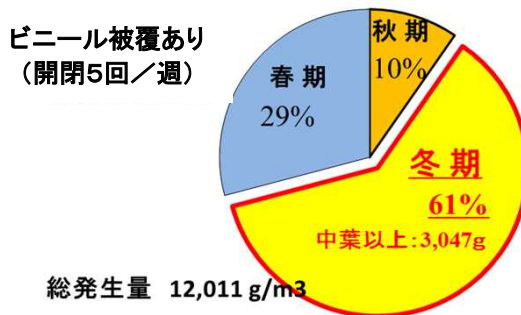
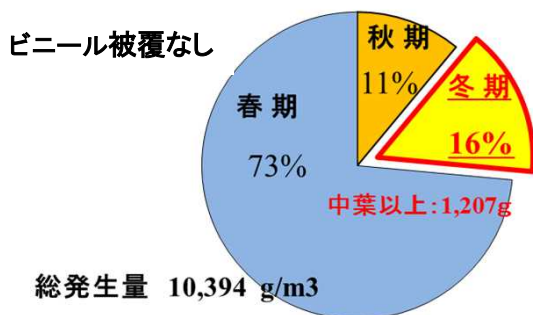
ビニール被覆なし



ビニール被覆あり

【研究の成果】

人工ほだ場でビニール被覆を行い、さらに日中に被覆したビニールの開閉を行って温度と湿度をコントロールすることにより、良品が採れる冬期の発生割合が増加するとともに、サイズの大きいシイタケがより多く採れる傾向が認められました。



- 冬期の発生割合が増加しました。(16% → 61%)
- 中葉以上のサイズが大きいシイタケの収量が増加しました。

【生産者の声】



シイタケ栽培研修会(平成25年9月18日)

○研究成果は各種研修会で発表しました。生産者の皆様からいただいたご意見を紹介します。

- ・ 被覆した列としない列を比較したが、被覆したほうがしいたけが大きい。【竹田市 60代】
- ・ 寒い時期に採れたので、害虫の被害が少なかった。【しいたけ源兵衛塾生】
- ・ 冬場でも芽が枯れないので総発生量が増えたと思う【豊後高田市 60代】
- ・ ビニール被覆の効果は聞いていたが、きのこグループの数値データをみて実践する気になった。【しいたけ源兵衛塾生】

【連絡先】

担当：林業研究部 きのこグループ きのことチーム
TEL：0974-22-4236
住所：豊後大野市三重町赤嶺2369